

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28年 5月 25日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3491900134		
法人名	特定非営利活動法人 元気むらさくぎ		
事業所名	グループホームさくぎ		
所在地	広島県三次市作木町下作木739番地1 (電話) 0824-55-3326		
自己評価作成日	平成28年5月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3491900134-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年6月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用される皆様が馴染みの方たちと地域の中で触れ合いながら、「共に喜び、共に笑顔を、やすらぎの中で」の理念の下、安心して安全な生活が送れるよう支援していきます。ご家族とはコミュニケーションを密に図って、訪問しやすく相談しやすい関係作り、地域の方には散歩の途中など見かけたときには必ず挨拶をすることや事業所の行事に招待するなどして、日頃から気軽に訪問しやすい関係作りに努めています。開設して6年になりますが、少しずつその目標に近づいていると思います。今後も利用者一人ひとりに応じたアクティビティを実施し出来るだけ自立した、又張り合いや楽しみのある生活が送れる施設を目指して頑張っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

この事業所は島根県との県境にあり、過疎と高齢化の深化に呼応して、地域おこしの手法として地域住民のNPO組織で運営されている。今春から、古里にUターンして6年間事業所で介護技術を修練した若い職員を新管理者に選任、若い力と純朴な人柄が、利用者の笑顔に反映されている。そして、事業所の特徴的な取組みとして、利用者の強みを活かしたアクティビティ（生活の営み）の展開がある。介護度は重いですが、その方の「座れる力」を活かして、毎朝ポータブルトイレに座ってもらい、腹圧を上げて排泄を促す等、自立に向けた支援を行っている。また、利用者の生活歴の延長線上にある柏餅や干し柿作り等を通して、利用者として「共に喜び、共に笑顔を」分かち合い、日々の生活に潤いをもたらす事で、理念の実践に繋がっている。更に、過剰と思われた薬を調整した結果、不穏状態が改善し、その方が「やすらぎの中で」過ごせる様になった事が、その家族の喜びに繋がり、届いた礼状が職員の「励み」「元気」の源になった。また、リビングのすぐ傍に稲田があり、成育状況が日々の会話の話題となり、蛙、小鳥たちの鳴き声も聞こえてくる。これも都市部の事業所にはない、自然環境の恩恵である。今も、村社会の互助の風習が残る、地域清掃、小中学校の運動会、お祭り等の地域交流も盛んである。利用者・事業所・地域住民を取り巻く「元気」の連鎖が深まる中で、現況の「過疎」を跳ね返す、多くの可能性とエネルギーを秘めた事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は常時事務所内に掲げている。昨年は職員会議を毎月開催できず、唱和も出来なかった。しかし共有、実践は出来ていると思う。	理念は、事務所内の見やすい所に掲示し、職員が日々確認できるようにしている。それを踏まえ、例えば、季節行事の柏餅作り等を通して、利用者と「共に喜び、共に笑顔を」分かち合い、日々の生活に潤いをもたらす事で理念の実践に繋がっている。また、不穏な利用者に対しても、その対応を職員で共有する事で、その方が「やすらぎの中で」過ごせる様、理念に沿った取り組みを行っている。	開設から6年を迎え、職員への理念の周知や実践について、より深く取り組むことで更なる向上を期待したい。例えば、理念の下に分り易い具体的な年間行動目標（事業所・職員個人）を設定し、定期的に達成度を評価する案など、理念の深化・定着に努めることで、理念を共有し更に実践に強く繋げることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方が定期的に玄関の花を活けに来られたり、隣の中学校の運動会で専用のテントを準備して下さったりと地域との交流が確立している。	地域住民と職員が相互に事業所と周辺道路の除草を行い、地域清掃に協力している。利用者は、地域住民が設営してくれたテントで中学校の運動会を見学し、文化祭では中学生神楽を楽しみ、世代間交流を行っている。また事業所主催の「納涼の集い」に地域住民を招待したり、玄関の花の活け替え、ボランティアの受け入れ等、相互交流も為されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症の施設であることは、十分に認識いただいていると思うが、現段階では地域貢献はまだ不十分である。施設周辺道路の除草等、自分たちで出来ることの協力を続けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	行政、地域包括支援センター、特別養護老人ホーム、民生委員協議会、自治連、家族代表の参加を得て定期的に開催しており、会議で出された意見を活かすようにしている。	運営推進会議は、家族代表・地域包括支援センター職員・民生委員協議会・自治連合会・特別養護老人ホーム園長・三次市役所作木支所長が参加し、定期的に開催されている。会議では事業所の現況・行事報告や、参加者相互の意見・情報交換が行われ、地域の消防団が避難訓練参加に繋がった例もある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力を築くように取組んでいる。	当事業所は市の指定管理施設であり、市の担当者とは事あるごとに連携をとって助言、指導を仰いでいる。	事業所は市の指定管理施設であり、事業所設備や介護上の対応等について市の担当者と相談を行い、連携を図っている。緊急やむを得ざる対応として行った、ベッド柵の設置が、身体拘束に当たるとの市の指摘を踏まえ、ベッド柵を外す時間を徐々に延長し、ケアの改善に繋がった例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>ベッド柵をしている利用者様に身体拘束にならないように、ベッド柵を一か所外して臥床してもらい、見守りを行っている。ベッド柵を外す時間を徐々に長くしている。</p>	<p>事業所は「身体拘束排除マニュアル」を策定し、職員は「身体拘束はしない」必要性を認識し、具体的なケアの中で実践を重ねている。例えば、日中は玄関を施錠せず、臥床時は不必要なベッド柵による拘束は避け、ベッドにセンサーマットを設置し、転倒のリスク管理に努めている。なお、頻繁に離設を試みる利用者の居室ガラス戸は、安全確保の為に、家族の同意を得て施錠をしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>職員会議や日々の介護の中で、声のかけ方等にも気を付けるようにしている。利用者さんの僅かな内出血等も必ず介護記録に記載し、管理者にも口頭で報告している。管理者は必ず確認している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>以前、後見人制度を利用しておられる利用者さんがおられたので、職員全員が身近な制度として理解出来ているが、活用には至っておらず、学ぶ機会もない。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には家族に十分説明を行っている。又、改定時には改定前と改定後が理解出来るよう文書を作成して、説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱の設置、「家族の集い」時に参加家族全員と代表者、管理者とで意見を聞く場を設け、皆さんより意見を頂いている。</p>	<p>利用者の意見、要望は日々の職員との会話を通じて把握し、家族とは面会時や年末の「家族の集い」や運営推進会議等で、職員や管理者が積極的に聴くように努めており、介護記録にそれを記載し、職員間で共有している。意見が反映された例として、家族からタンスの中の整理を要望され、利用者と協力して当たった例がある。また、今月から2か月毎に利用者近況報告書を送付し、意見交換の手段としても活用する予定である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者以下、全職員が参加する職員会議を開催し、職員の意見や提案を聞いている。浴室の職員のコールをリビングに設置した。	管理者は日常的に業務のシフトに入り、情報を共有すると共に、日頃から職員と話す機会を設け、業務上や職場関係での悩み等に対する支援に取り組んでいる。また、朝夕の申し送り時や毎月の職員会議において、職員の意見を聞いて集約している。床ずれのある利用者の夜間の体位交換やポータブルトイレの位置の改善に繋げた例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は法人の理事でもある事から、各職員の実績や勤務状況を把握しており、非常勤職員から正規職員への転換など、やりがいや働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格取得の為に勤務変更や、費用の全額負担等の支援を行っている。又、全職員に順次認知症介護実践研修を受講させ、資質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	備北地域で創設された「びほくいいきネット」に参加しているので、今後は活用したい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所相談や申し込み、見学に来られた際に本人様の思いなどを、本人が話しやすいようにゆっくりと大きな声で話しかけてお聞きしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入所相談や申し込み、見学に来られた際に、本人様がどのような状態なのか等、出来れば本人様には他の場所でお茶を飲んだりして頂いている間に、話しやすい環境を作りながらお聞きしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談に来られ、お話を伺った段階で当事業所以外のサービスが必要と判断した時は、助言を行っている。実際に他のサービスを勧めたことがある。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>家庭での生活と同様に過ごしていただくと考え、自分で出来ることは自分でして頂くようにしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族に対して定期的に行う利用者状況報告や随時の電話での報告等、情報交換を行い、共に本人を支える関係が築けている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>面会に来られればコーヒー等の飲み物を必ずお出しして、居室でゆっくり過ごして頂いている。保育園、小学校、中学校の合同運動会へ参加して、知り合いとの交流を図っている。</p>	<p>「地域との絆」を大事にしており、外出・買い物・地域行事を通して、馴染みの場所で馴染みの顔や声と、何気ない日常を楽しめる様に支援している。例えば、馴染みの店に週2回、缶ビールを買いに出掛けたり、保育園、小・中学校の合同運動会を見学した際に地元の知人と旧交を温めたり、元々のかかりつけ医への通院介助を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が利用者さんの間に入って話を進めたり、出来るだけ全員で同じテーブルで同じ話題で話が出来るように、関わっている。又、気の合わない利用者さん同士は、同じテーブルで食事をしないような配慮も行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所時には、関係者に情報提供を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いや意向の把握が困難なこともあるが、日々の会話や聞き取りにより、出来るだけ把握出来るよう努めている。	利用者毎に担当を決め、職員は利用者の気持ちを大事にしながら、ゆっくり話す時間を作り、その方の行動を理解するよう努めている。例えば、最近入居した利用者が、以前より元気になり、家族に手紙を出したいという意向を汲み取り、葉書を書く支援をしたり、薬の効果により一時的に会話が出来た様になった利用者の「ご不浄に行きたい」という意向に沿って支援をした例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面接時や契約時、又は、入居後に本人や家族からしっかりと聞き取り（アセスメント）を行い、ケアプランに反映するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントや日々の生活の中で、現状を把握するように努めている。アクティビティも、本人の状況に合ったことを提案し、実行して頂き、記録に残している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>担当者会議での家族の要望や、担当職員の意見（出席できない場合は文章で）、又職員会議での他の職員からの意見を基に介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画は、管理者・計画作成担当者がアセスメントを行い、計画作成担当者が原案を作成している。担当者会議を開き、担当職員や他の職員とケアの実行可能性を検討して、介護計画を立案する。計画作成担当者が毎月モニタリングを行い、計画の見直しは3か月毎に職員会議で実施している。「歩きたい」という意向に対し計画を立案し、手引き歩行でリビングの移動練習に繋げた例がある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日、個別の介護記録にその日の状況を記入し、又勤務帯毎に申し送りを行い情報の共有に努めている。職員から介護計画の見直しの提案があれば、参加できる職員で協議している。その結果は文書にて、全員で共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>出来る範囲のニーズに対応している。受診対応は原則町内としているが、家族が希望されれば、旧市内でも対応している。その場合、職員配置を増やすなどの対応も行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>ボランティアが生けた、玄関の生け花を見て喜ばれたり、地元老人会等のボランティア訪問により、日常ではない関わりを持っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>原則2週間に一度、主治医の往診があるが、その他にも主治医の指示や本人や家族の希望又は管理者が必要と判断した場合は、受診の支援を行っている。</p>	<p>利用開始前の主治医の受診継続も可能としているが、殆どの利用者は事業所の協力医を主治医としている。協力医から2週間に1回の往診の他、本人・家族の希望時や必要時にはその医療機関への受診支援を行っている。なお、受診情報は利用者ごとのファイルに整理され、職員間で共有されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医院の看護師とは、何かあれば直ぐに電話連絡するか訪院して、担当看護師や医療ソーシャルワーカーから情報提供をしてもらっている。そのためにも医療ソーシャルワーカー等との関係作りに努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には管理者が同行して情報提供を行っている。又退院時にも状況把握のため訪院して、担当看護師や医療ソーシャルワーカーから情報提供をもらっている。そのためにも医療ソーシャルワーカー等との関係作りに努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合も、医療行為が伴わない限り対応はしているが、終末期の対応は、看護職員もいないことから困難である。</p>	<p>利用開始時に事業所としての基本的な方針を説明し了解を得ている。重度化した際には、本人・家族・医師と話し合いを行い、医療行為が必要でない場合には、できる範囲で適切な支援を行う考えである。看護師の配置もないため、看取りは行なっておらず、基本的には、重度化した場合は医療機関への転院を支援することを、その方針としている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時のバイタルチェックや意識レベルの確認、顔色、表情の確認など、行うべきことを管理者が指示し、現在は実践出来ている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>定期的に火災、避難訓練を行い、利用者の人命第一との方法を職員全員に徹底している。常会の方には常に協力をお願いし、地元の方面隊にも訓練に参加頂いて避難経路の確認をして頂いている。</p>	<p>消防署の指導の下、年2回の避難訓練を夜間想定、利用者参加を含め実施し、その内1回は消防署も立会い、指導・助言を行なっている。訓練内容も、車いすや歩行器使用者の避難経路・方法を検討する等、実践的なものとなっている。また、運営推進会議の出席者の提案により、地域の消防団も避難訓練に参加するようになった。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩としての対応を心掛けるように気を付けているが、雰囲気によっては敬語ではなく親しみやすい言葉で話すこともある。	利用者に対する言葉かけは常に敬語で、といった画一的な対応はせず、寛いだ雰囲気でのコミュニケーションを図るため、家族的な距離感で、思いを持って接するよう配慮している。訪室時のノックや声掛け等、人生の先輩として「親しき仲にも礼儀あり」を基本に、馴れ合い的な声掛けや指示的な言動に対してはその都度指導し、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	声掛けして本人の思いや希望を聴きだすようにしているが、なかなか自己決定は難しいこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	往診や日課の体操など、決まったこと以外は出来るだけ自由に過ごして頂くよう支援している。居室でテレビを観たり、横になったりされている。一日に何度も自由に、居室とリビングの往復をされる方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分で衣服が選べる人は、自分でダンスから出して着ていただいている。着る順番が違っていたりしたら介助している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者とのティータイムの会話の中で食材のカタログなどを見ながら、何が、食べたいか希望を聞いて、メニューに取り入れている。又誕生日には、事前に希望を聞いて提供している。昼食・夕食時のおしぼりの準備をして頂いている。	献立は、職員の担当であるが、利用者とは相談しながら、献立表を基に、内容が重複しないよう留意している。誕生日には、利用者の希望する食事を献立に取り入れて、提供している。また、昼・夕食時のおしぼりの準備は、利用者が行なっている。事業所の菜園でできた野菜や近所から差し入れされた山菜が食卓に上ることもある。更に、紅葉狩り等の季節の外出行事で外食を楽しむこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>利用者ごとに食事は加減しており、又お粥、ミキサー食、トロミをつける等、その人の状態に応じた食事形態のものを提供している。水分量も摂取量を記録し、こまめに摂るよう支援している。水分制限のある人にも過多にならないよう支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後必ず居室に誘導して、自立の方には声掛け、介助の必要な方にはその方に適した介助方法で支援している。義歯の方は、毎晩洗浄液に浸けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>職員会議などでの話し合い、又担当職員からの起案により、出来るだけオムツにならないように実践している。尿意がなくても、立ち上がりが何とか出来る人は、排泄記録により排泄パターンを把握して、定期的にトイレに誘導している。又、オムツの方に毎朝ポータブルトイレに座ってもらっている。</p>	<p>出来るだけトイレで排泄してもらうように、排泄記録表等により、各人の排泄パターンを把握し、早めのトイレ誘導をしている。また、前施設で夜間オムツだった方が紙パンツとパッドに改善した例や紙パンツからパッドに改善した例、更にオムツの方に毎朝ポータブルトイレに座ってもらい、腹圧を上げて排泄を促す等、自立に向けた支援も行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便表を記録している。排便のないときは、腹部マッサージも行うが、3日毎に排便があるようコントロールを行っている。水分摂取にも努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>2回/1週は入浴して頂くようにしているが、その日の体調を考慮して、次の日にするなど柔軟に対応している。又、週に3回の入浴を希望される方にも対応している。</p>	<p>入浴は、週2回、午後（14～16時）の入浴を基本に行っているが、利用者の体調や入浴習慣に合わせ、週3回に増回したり、希望に応じて同性介助で行ったり、状況により柔軟に対応している。また、利用者の重度化に対応し、利用者の体の負担を軽減するため、シャワー浴や足浴で対応したり、季節によっては、柚子湯に浸かって、入浴を楽しめる工夫も為されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	希望者には、午睡をしていただいている。又、就寝時には、冬季であれば事前に電気毛布やエアコンなどのスイッチを入れて、暖かくして気持ちよく入眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者の薬情報を一つのファイルにまとめ、職員がいつでも見れるようにしている。又、往診、受診時の医師の指示等も申し送りノートで、職員全員が情報を共有しており、何か変化があれば、直ぐに管理者に報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎日、洗濯物を干す、畳む、モップ拭きなど、利用者に出来ることをしていただいております。「助かりました」「有難うございます」等と言うと「役に立ってうれしい。又言ってください」と言われたり、毎日の散歩などで、張り合いや楽しみを感じていただいていると思う。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や施設周りの外出は希望に沿って対応している。隣にある中学校の運動会や文化祭の神楽の発表会も、希望されれば支援している。又、年に数回、花見、外食、紅葉狩りには全員で外出している。	日頃から天気の良い日には、利用者の希望により少人数で、職員と事業所周りの散歩に出掛けている。また、紅葉狩りや花見等、季節の外出行事や隣接中学校の運動会・文化祭の神楽見学等、普段は行けないような所へ出掛け、「非日常」を楽しむこともある。更に家族と一緒に回転寿司に行ったり、墓参りの帰りに町内のカヌー公園で外食を楽しむ利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	認知症の施設ということで、利用者さんにお金を所持して頂くことは困難であり、家族と相談の上利用者さんには、管理して頂いていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>何人かの利用者さんに家族の方へ手紙を書いてもらい、面会時に家族に渡した。又、利用者さんからの希望による電話の訴えはないため、支援を行ってはいないが、宅急便などが来た時は、職員が相手に電話し、本人と話して頂くよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビングやトイレ等の共有部分、及び各居室は毎日清掃を行っている。又リビングには雛飾りや鯉のぼりを飾ったり、散歩の途中で取った花を飾って季節感を取り入れている。ボランティアさんによる季節の生け花がある。</p>	<p>リビングは高い吹き抜けの開放的な空間であり、周囲の緑の景観と相俟って、癒しの空間となっている。共用空間は、職員により毎日掃除が行われ、玄関にはボランティアにより季節の花が生けられ、近隣住民からの桃の花の差し入れもあり、清潔な居心地良い場所になっている。また、リビング内の一部屋では、利用者が、洗濯干しや洗濯畳みを手伝う「生活の場」にもなっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>全員で同じテーブルで話をしたり、歌を歌って過ごしたり、テレビを観たい人はソファで観るなど、自由に過ごしていただいている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>備え付けの整理タンスとベッド以外は、自宅で使用していたものを持ってきていただいている。家族の写真や手紙、自分で制作したちぎり絵を飾っている方もおられ、居心地よい環境作りに努めている。</p>	<p>基本設備として、ベッド・整理タンスが設置され、他は利用者の日用品が持ち込まれている。娯楽として、テレビ等の使い慣れた物や昔自分で作ったちぎり絵・家族からの手紙・写真等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様に工夫が為されている。また、ベッドからの転倒防止のため、柵による拘束を避け、センサーマットを導入するケースもある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>居室やトイレの場所が分かりやすいように、名前やマークを貼り付けている。又夜間、トイレの場所が理解できない人が、自力でトイレに行けるよう、ドアを開放して自立を促している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームさくぎ

作成日 平成28年7月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	年間行動目標（事業所・職員個人）を設定し定期的に評価する案など、理念の深化・定着に努めることで、理念を共有し更に実践に強く繋げることを期待したい。	年間目標を設定し、日々の仕事を振り返る機会を設ける。	職員会議にて、年間目標を設定する。勉強会を開き職員の意識を高める。	12ヵ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。